

# 雨堤遺跡発掘調査報告書

一般県道上大立大栄線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

平成15年度

倉吉市教育委員会

# 雨堤遺跡発掘調査報告書

一般県道上大立大栄線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査



平成15年度  
倉吉市教育委員会

## 序

この報告書は、鳥取県中部総合事務所県土整備局が実施する一般県道上大立大栄線道路改良事業に伴い、平成15年度に鳥取県倉吉市上福田字雨堤において行った発掘調査の記録です。

今回の調査は道路計画部分の限られた調査でしたが、縄文時代の落し穴・弥生時代の貯蔵穴・古墳時代の石棺墓などを確認することができました。

この報告書を多くの方々に活用していただき、埋蔵文化財への理解を深めていただく一資料となれば幸いに思います。

最後になりましたが、調査に際しましてご協力いただきました地元関係者、鳥取県中部総合事務所県土整備局をはじめとする関係機関の方々に対し深く感謝の意を表するものです。

平成16年3月

倉吉市教育委員会

教育長 福光純一

## 例　　言

1 本報告書は、一般県道上大立大栄線道路改良事業に伴う事前調査として、平成15年度に倉吉市が鳥取県中部総合事務所墳土整備局の委託を受け、鳥取県倉吉市上福田字雨堤において実施した埋蔵文化財発掘調査の記録である。

2 調査体制は次のような組織・編成である。

調査主体 倉吉市教育委員会

事務局 倉吉市教育委員会事務局文化課

　　福光 純一（教育長）　　　　河本 篤史（教育次長）

　　浜田 広幸（文化課長）　　　佐々木英則（文化課長補佐兼文化財係長）

　　森下 哲哉（文化財係主任）　根鈴智津子（文化財係主任）

　　加藤 誠司（文化財係主任）　岡平 拓也（文化財主事）

内務整理 大川京子・竹嶽暁子・仲田康子・浜田マリア・松崎あつ子・山田芳旭・山本千恵美（50音順）

3 現地調査は加藤が担当した。本書の執筆は加藤が行った。

4 第1図（地形図）は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図「倉吉」「泰久寺」「伯耆浦安」「圓金宿」の一部を複製・加筆した。

5 採図中の方位は、磁北を示す。

6 調査によって得られた資料は、倉吉市教育委員会が保管している。

## 本文目次

I 発掘調査に至る経過 .....	1
II 位置と歴史的環境 .....	1
III 調査概要 .....	7
1 遺構 .....	7
2 遺物 .....	7
IV まとめ .....	10
報告書抄録 .....	

## 挿図目次

第1図 倉吉市周辺の地形と遺跡分布図 .....	3
第2図 雨堤遺跡調査区位置図 .....	4
第3図 雨堤遺跡遺構全体図、断面図 .....	5
第4図 1号・2号落し穴、1号・2号貯蔵穴、1号石棺墓遺構図 .....	8

## 図版目次

図版1 遺跡 調査前全景 調査後全景 .....
図版2 遺構 1号落し穴 2号落し穴 1号貯蔵穴 2号貯蔵穴 1号石棺墓 1号道路遺構 .....
図版3 遺構 1号道路遺構 1号道路遺構・断面 1号道路遺構 .....
図版4 遺物 1号貯蔵穴出土・弥生土器 土師器 1号道路遺構出土玉砂利 .....

## I 発掘調査に至る経過

平成14年に鳥取県中部総合事務所県土整備局より倉吉市都市計画課を通じて、倉吉市教育委員会文化課に倉吉市上福田字雨堤の約1,700m<sup>2</sup>について一般県道上大立大栄線改良事業の計画が提示された。当該地を踏査したところ隣接の荒地で多くの土器散布を確認したため、平成14年12月に試掘・確認調査を実施した。その結果、弥生土器片・須恵器片が出土し、貯蔵穴1基・溝1条を確認したため、遺構の存在する700m<sup>2</sup>について発掘調査を実施することとなった。

現地調査は平成15年12月24日～平成16年2月12日まで行った。

註 加藤誠司 「上福田地区（雨堤遺跡）」『倉吉市内遺跡発掘調査報告書12』2003

## II 位置と歴史的環境

雨堤遺跡は、倉吉市街地から西に約7km離れた倉吉市上福田字雨堤に位置する。調査地は大山の火山活動によって形成された丘陵上で、通称久米ヶ原と呼ばれている。久米ヶ原は、標高が概ね標高100m以下の緩やかな尾根と谷が南北から北東方向へ枝状に派生して連なり、西に隣接する大栄町とともに県下でも有数のスイカをはじめとする畑作地帯となっている。現地の標高は約83m～87mの丘陵南側から西斜面である。

この地域の遺跡は丘陵縁辺部を中心に多く確認されている。以下、遺跡分布図を中心に概要を述べる。

旧石器時代の遺構は未確認であるが丘陵の末端近く長谷遺跡・中尾遺跡でナイフ型石器が、上神51号墳下層で細石刃石核が出土した。

縄文時代の遺跡は、丘陵を中心として確認している。周辺では取木遺跡・西高尾谷奥遺跡（大栄町）で各2棟の住居跡が見つかっているが、大部分は落し穴を確認したものあるいは遺物が出土したものである。後口山遺跡1区では、中期の土器が石器とともにまとまって出土、後口山遺跡2区では落し穴や、石圓い印が出土した。その他、船沖遺跡(67)高峰遺跡(35)・矢内谷峰遺跡(34)・頭根後谷遺跡(22)も落し穴を確認した。

弥生時代の集落はほとんどが後期の集落で多くは古墳時代まで継続する。前期は船沖遺跡(67)で土器が出土、中期は拠点的集落と推定され鳥形スタンプ文土器が出土した中峯遺跡・環濠をもつ後中尾遺跡(71)、福田寺遺跡1次・3次調査、中期～後期の集落で破碎鏡の出土した高原遺跡(30)などがある。後期は服部遺跡(50)・中峯遺跡・後中尾遺跡・白市遺跡・コサンコウ遺跡・大山遺跡(25～28)・観音堂遺跡A地区(58)・観音堂遺跡B地区(59)などがある。服部遺跡は昭和46年～47年に調査が行われ、竪穴式住居10棟・掘立柱建物1棟が確認された。

墳墓は前期の土塙墓群であるイキス遺跡、後期の阿弥大寺四隅突出型埴丘墓(65・国史跡)、方形墳の三度舞埴丘墓、終末期から古墳時代前期に継続する土塙墓と古墳群(方墳)がある二夕子塚遺跡(18)などがある。

倉吉地方の古墳時代前期の首長墓は、調査地周辺には存在しないが久米ヶ原丘陵末端付近、国の重要文化財である櫛回鏡・三角縁神獸鏡・鉄製農工具が出土した国分寺古墳(前方後方〈円〉墳・全長60m)を初現とする。5世紀代は、三角縁神獸鏡・形石・拳柱型石製品が出土した上神大将塚古墳(直径30m)がある。中小規模の古墳は、駆道東遺跡(17)・頭根後谷遺跡(22)・服部古墳群(43)など主に箱式石棺墓を主体とする古墳群が形成される。服部古墳群(43)は50基余りから成り、数基から10基前後で支群が形成されている。調査によって、12m～16m余りの埴丘規模をもつ円墳6基(48・49・51・52・53・54・6世紀中～後半)が確認された。頭根後谷遺跡(22)は11基の古墳調査が行われ、蛇行鉄劍が出土した。

6世紀中頃には東伯番に横穴式石室が導入され、首長墓として大宮古墳(円墳・直径28m)が、6世紀後半に向

山6号墳(前方後円墳・全長40m)、7世紀に入ると三明寺古墳(円墳?)・直径18m・国史跡)が築造される。

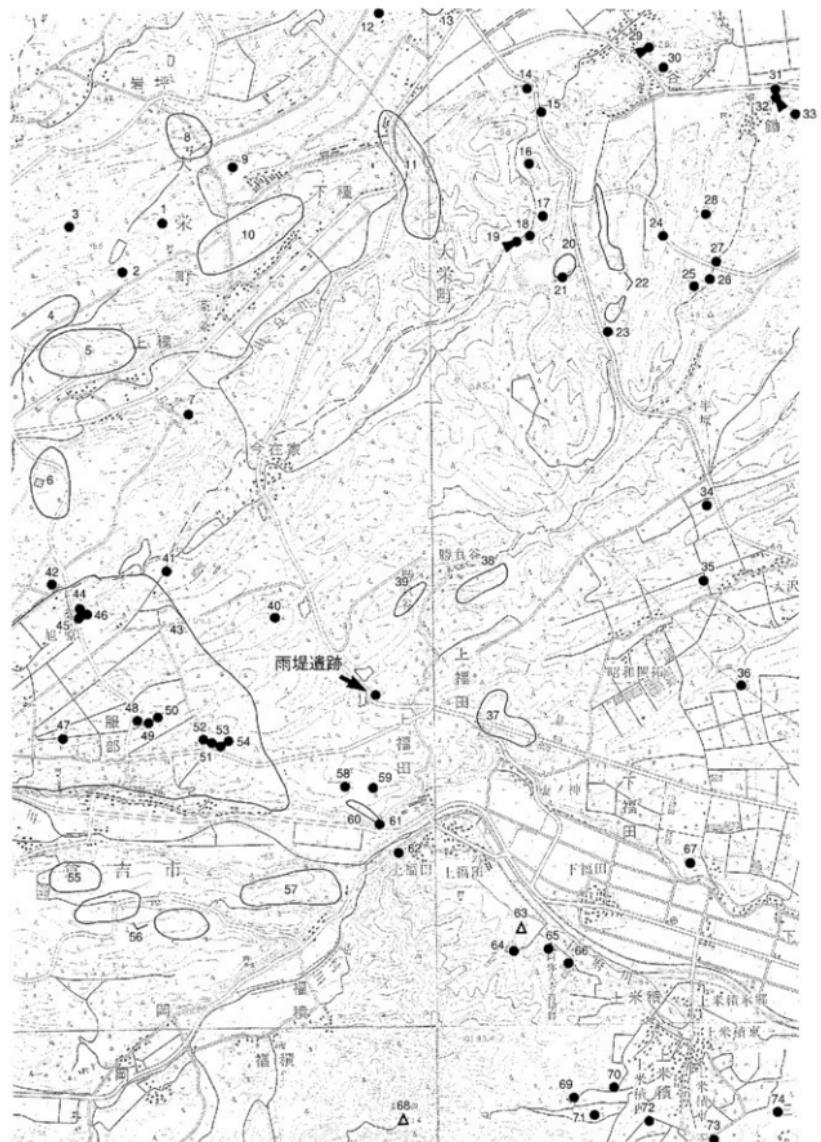
その他調査地付近には、観音堂古墳群(60)、円筒埴輪が出土したという鶴塚古墳群(40)、ケンカ塚古墳群(38)、10基余りからなる稚兒ヶ墓古墳群(37)が存在するが、一部調査を行った観音堂1号墳(61)を除き未調査のため詳細は分からぬ。

古墳時代終末期には、追幕のできない小型の横穴式石室をもつ取本遺跡・一反半田遺跡・両長谷遺跡がある。

奈良時代には、伯耆國守・国分尼寺と推定される法華寺遺跡・伯耆國分寺・國府関連遺跡と推定される不入岡遺跡が近接し設けられ、伯耆國の中心地として栄える。寺院跡として7世紀中頃に銅製匙・銅製獸頭が出土した大御堂廃寺、7世紀末に大原廃寺、8世紀には石塚廃寺が創建される。奈良時代から平安時代の集落跡は、観音堂遺跡・横田矢戸遺跡・向野遺跡・平ル林遺跡などで多くが7世紀後半から9世紀にかけての遺跡である。

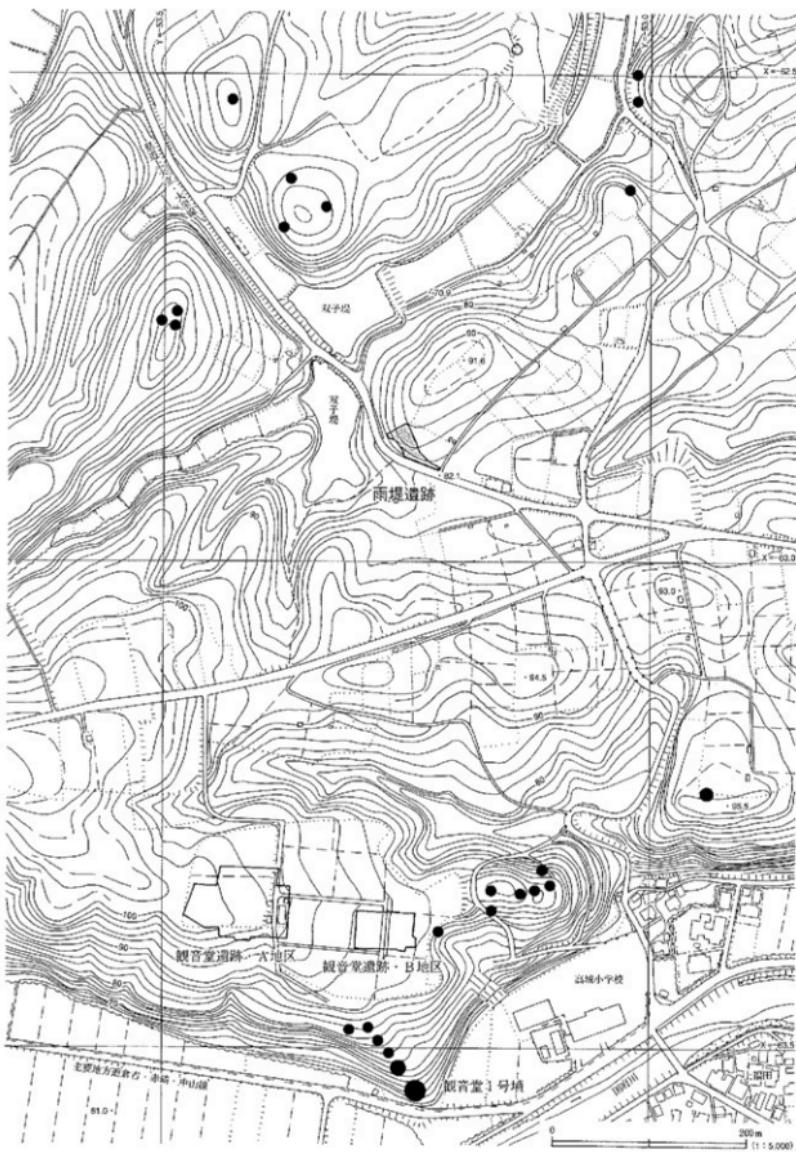
中世の遺跡としては、国府川を挟んだ南側の丘陵に高城城跡(68)が築城される。

1 上種第1遺跡	16 清水谷古墳群	31 高鼻1号墳	46 服部4号墳	61 観音堂1号墳
2 上種第5遺跡	17 駆道東遺跡	32 高鼻2号墳	47 服部11号墳	62 上福田横穴群
3 上種第6遺跡	18 ニタ子塚遺跡	33 高鼻遺跡	48 服部35号墳	63 下福田城跡
4 上種西古墳群	19 ニタ子塚6号墳	34 矢内谷峰遺跡	49 服部36号墳	64 小谷遺跡
5 上種中央古墳群	20 郊家平古墳群	35 高峰遺跡	50 服部遺跡	65 阿弥大寺塚丘墓群
6 上種東古墳群	21 郊家平1~3号墳	36 大瀧谷遺跡	51 服部47号墳	66 下小垣遺跡
7 加茂山古墳	22 頭根後谷遺跡	37 稚兒ヶ墓古墳群	52 服部48号墳	67 船沖遺跡
8 野田古墳群	23 東鳥ヶ尾遺跡	38 ケンカ塚古墳群	53 服部49号墳	68 高城城跡
9 下種第1遺跡	24 大仙峯遺跡	39 勝負谷地域遺跡群	54 服部50号墳	69 奥田遺跡
10 下種古墳群	25 大山遺跡A地区	40 鶴塚古墳群	55 牛王野北古墳群	70 箕ヶ平遺跡
11 下種東古墳群	26 大山遺跡B地区	41 鶴塚遺跡	56 牛王野古墳群	71 後中尾遺跡
12 亀谷第1遺跡	27 大山遺跡C地区	42 下野山古墳	57 並塚古墳群	72 後口谷遺跡
13 亀谷古墳群	28 大山遺跡D地区	43 服部古墳群	58 観音堂遺跡A地区	73 晩田遺跡
14 西焼古墳群	29 大塚山古墳	44 服部2号墳	59 観音堂遺跡B地区	74 上野遺跡
15 清水谷尻1号墳	30 高原遺跡	45 服部3号墳	60 観音堂古墳群	

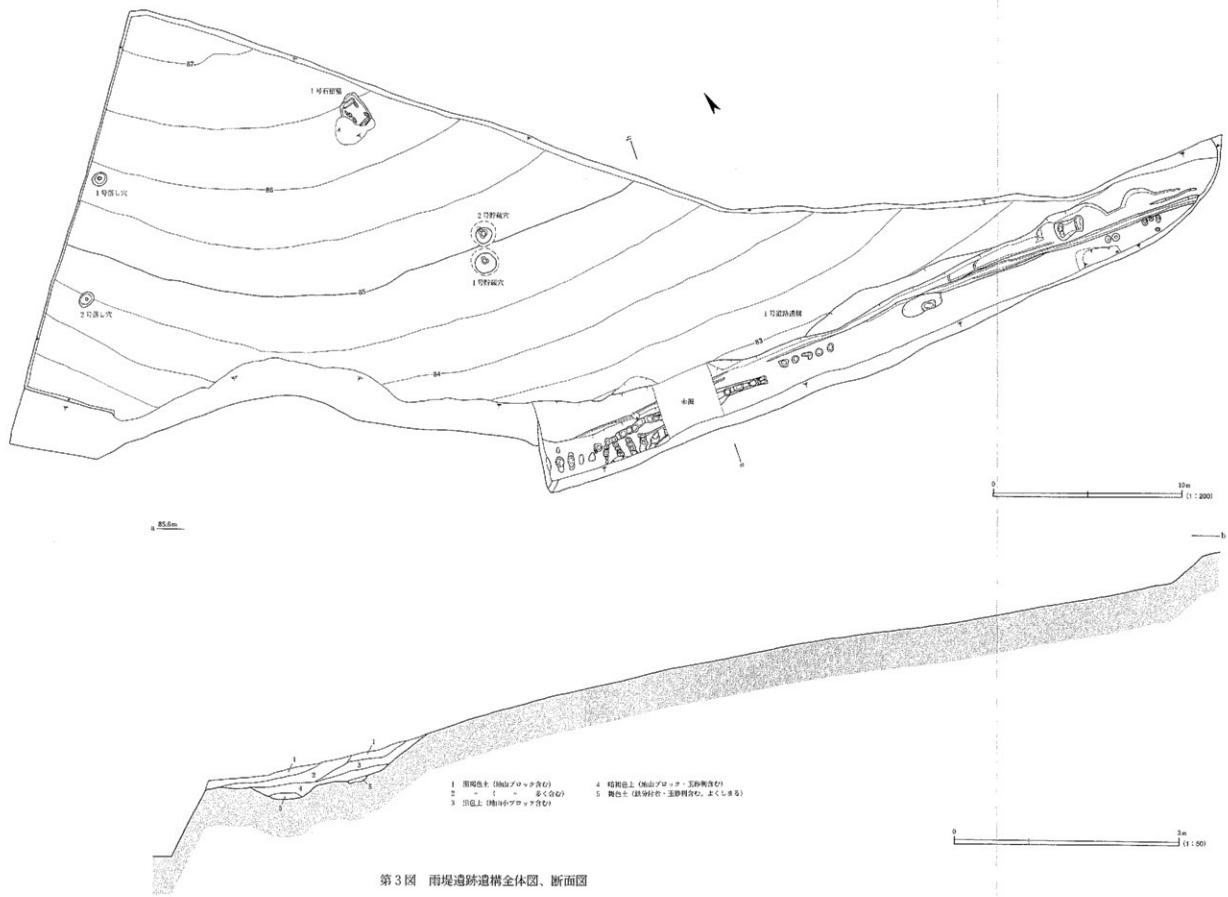


第1図 倉吉市周辺の地形と遺跡分布図

(1:25,000)



第2図 雨堤遺跡調査区位置図



第3図 雨堤遮防構全休図、断面図

### III 調査概要

発掘調査は、北東から南西に延びる丘陵南斜面を、南東から北西に貫く県道の拡張部分のうち700mについて実施した。調査地の基本層序は、①黒褐色土（表土）、②黒色土（黒ボク土）、③暗褐色土（ソフトローム暫移層）、④褐色土（ソフトローム）、⑤黄灰色砂質土（ホーキ土）である。遺構検出は④または④と⑤の混じった面で行った。

調査の結果、落し穴2基、貯蔵穴2基、石棺墓1基、道路遺構1条を確認した。

#### 1 遺構

1号落し穴 調査区西端、標高約86mに位置する。平面形は楕円形で、検出面規模—長径0.81m×短径0.69m、底面規模—長径0.56m×短径0.48m、深さは1.22mでほぼ垂直に掘り込まれる。底面は中央に直径0.16m×深さ0.27mの円形ピットがあり、その中央部は直径0.08mの杭痕跡が遺存していた。

2号落し穴 調査区西端、標高約84.5mに位置し、1号落し穴からは約6m離れる。平面形は楕円形で、検出面規模—長径0.78m×短径0.67m、底面規模—長径0.59m×短径0.50m、深さは1.04mでほぼ垂直に掘り込まれる。底面は中央に直径0.13m×0.12m、深さ0.30mのピットがある。

1号貯蔵穴 調査区のほぼ中央付近、標高約85m付近に位置する。平面形はほぼ円形で、検出面規模—長径0.54m×短径0.53m、底面規模—長径1.08m×短径1.06m、深さは0.96mで、底面に向かってオーバーハングする。底面は中央に直径0.36m×0.28m、深さ0.11mの浅い楕円形ピットがある。埋土は地山の黄色土が多く入り、人為的に埋められたことも想定される。遺物は埋土中で弥生土器小片（1～6）が出土した。

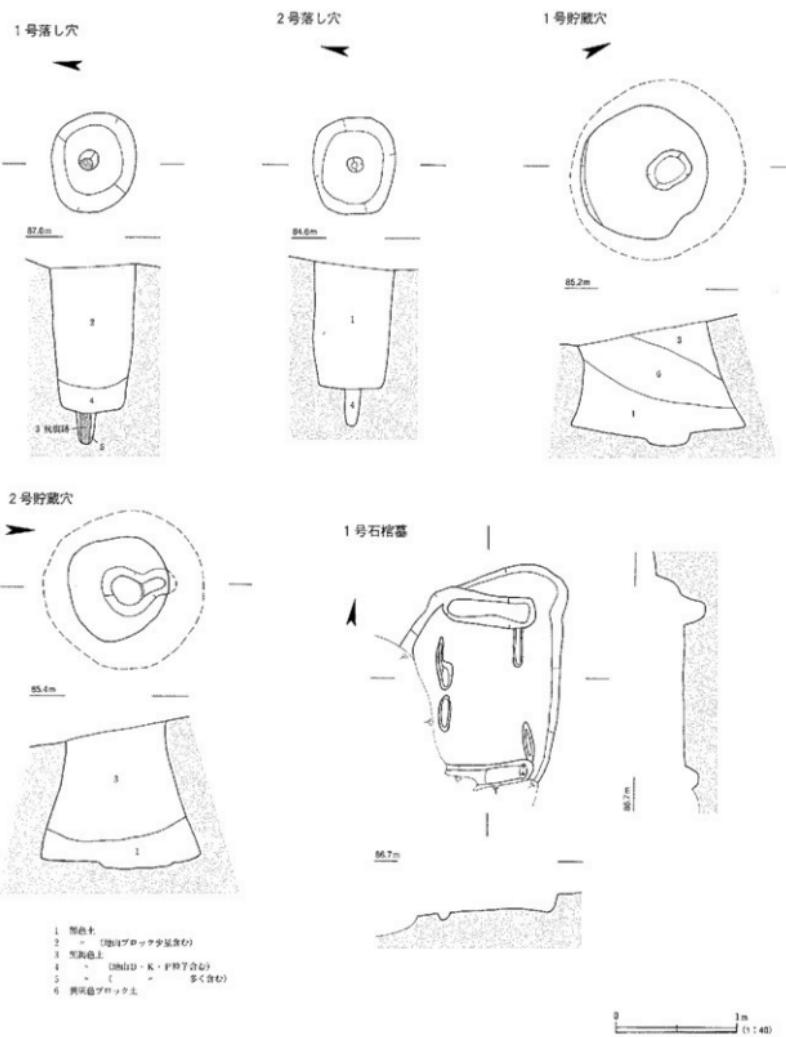
2号貯蔵穴 調査区のほぼ中央付近、標高約85m付近に位置する。1号貯蔵穴とは、検出面で約0.5mしか離れておらず、底面ではほぼ接する。平面形はほぼ円形で、検出面規模—長径0.84m×短径0.82m、底面規模—長径1.40m×短径1.30m、深さは1.16mで底面に向かってオーバーハングする。底面は中央に0.60m×0.41m、深さ0.06mの浅くいびつな2段になる楕円形ピットがある。遺物は出土しなかった。

1号石棺墓 調査区西寄りの標高約86.5mに位置する。平面形は長方形で、長軸は磁北から西に11度振り、等高線に直交する。掘り方の検出面規模は長軸1.22m×短軸0.89m、深さ0.15mである。石棺掘り方の内法規模は長軸1.16m×短軸0.50mで小口石の掘り方が側石掘り方を抉み深い。床面の高さはほぼ水平である。石棺材は板状剥離をする安産岩でいずれも抜き取られて付近の表土に散乱した状態であった。遺物は出土しなかった。

1号道路遺構 調査地の南側、現在の県道に平行するような形で確認した。方位は磁北から東に約10度振り、長さ39m、幅は最大で3.3m程度であるが県道により切られているため、本来はさらに長く幅もあったとみられる。埋土のしまりは悪い状態で床面近くに玉砂利が多く出土した。構造は斜面の高い側をカットし平坦面を作り、幅約0.2m、深さ約0.1m前後の断面長方形の溝を掘る。平坦部の中央付近は数十cmの大きさ、深さのピットが0.6m前後の間隔で連続して連なる。ピットの埋土は、玉砂利が混じり堅くしまっている状態であった。遺物は弥生土器、土師器が少量出土したが周辺から流れ込んだ状態であった。

#### 2 遺物

出土した遺物は全体的に僅かで、遺構から遺物が出土したのは1号貯蔵穴の弥生土器1～6だけであった。いずれも小片のため図化できる遺物はない。このため写真掲載のみとした。その他、包含層中出土の土師器7～18と、道路遺構から出土した玉砂利を写真掲載した。玉砂利は調査地付近のものではなく川から採取し使用したもの



第4図 1号・2号落し穴、1号・2号貯蔵穴、1号石棺墓造構図

のと考えられ、遺物として掲載した。

1号貯蔵穴出土の弥生土器1・2(図版4)は、同一個体とみられる壺体部下半片で、内面タテ方向のハケメ、外面タテ方向のミガキをする。3・4は同一個体とみられる土器片で、内面タテ方向のハケメ、外面タテ方向のハケメ後ミガキをする。外面は斜め方向の刺突文が連続する。これら土器は形態とハケメ調整などの特徴からいざれも弥生時代中期中葉ころの土器と推定される。

土師器は高坏片7・8・9・15が壺の口縁部片10・13・14・17、その他小片が出土した。高坏はいざれも赤褐色の胎土をもち、ヘラミガキを多用する。7は脚部を円盤充填する破片である。壺の口縁部片は10・13・14が、くの字状口縁で端部が面をもち内側に肥厚する。土師器は高坏の円盤充填の形態、口縁部の肥厚状態などの特徴から土井編年の後谷B21・2号住ころの遺物とみられる。<sup>(10)</sup>

1号道路造構から出土した玉砂利は、約2cm～7cm程度でいざれも角は丸く河原石とみられる。

註1 土井珠美 「鳥取県の状況」『弥生時代後期から古墳時代初期のいわゆる山陰系土器について』第18回埋蔵文化財研究会事務局 1986

## IV ま　と　め

発掘調査により、落し穴2基、貯蔵穴2基、石棺墓1基、道路状遺構1条を確認した。分かったことを整理し、まとめとしたい。

**落し穴** 遺物が無いため時期が不明確であるが、形態から縄文時代と推定した。2基の落し穴は約6mと近接して設置され、規模・形態が良く似ている。市内の中尾遺跡において、似た形態・構造・規模の落し穴が2基から3基程度近接して設置されるものがあることが分かっている。同時期にけもの道に沿って作られたと推定しており、雨堤遺跡においても同様のことがいえる。また、緩やかな斜面や谷と尾根が接する谷頭に落し穴の多いことが分かっているが、今回は丘陵のごく一部の調査で、2基のみの確認であるため、丘陵全体での配置はわからぬ。

**貯蔵穴** 2基を近接して確認した。どちらも底面中央にピットが存在するため、梯子や上屋構造の一部であるとも推定される。1号貯蔵穴の埋土は、崩れて埋まったか人為的に埋められたと考えられ、その後2号貯蔵穴が作られたものであろう。1号貯蔵穴の埋土から出土した土器は少量の体部片であったが、その特徴から弥生時代中期中葉と推定される。貯蔵穴に伴う住居跡は調査区内で未確認である。東側調査区外の荒地には弥生土器の散布が多いことから、集落の中心は東側のなだらかな丘陵と推定される。

**石棺墓** 1基のみ確認した。遺物がないため時期は不明確である。ただし、少量ながら遺物包含層から5世紀代とみられる土師器が出土している。石棺墓は中心主体の規模ではなく、調査区外の丘陵尾根側は、すでに畠地化しておりマウンド状の高まりはみられないが、古墳が存在する可能性が推定される。

**道路遺構** 斜面を一定幅でカットし側溝を作り、その内側にたくさんの土塊を掘りくぼめた後に埋められるなど、<sup>参考文献</sup>向野遺跡で確認された奈良～平安時代の道路遺構に似ている。ただし雨堤遺跡の場合、出土遺物が流れ込みの弥生土器、土師器がわずかに出土した程度で決めて手に欠く。埋土のしまりが悪いことから、奈良～平安時代の遺構とは考えにくく近世・近代の道とも考えられるが断定しかねる。

以上、道路拡幅部分のわずか700m<sup>2</sup>についての発掘調査であったが、弥生時代の集落の西端付近を確認し、さらには縄文時代の落し穴、古墳時代の石棺墓、道路遺構を確認することができた。今後は周辺に広がると考えられる落し穴・集落・古墳の調査進展による資料増加を待って、遺跡全体のあり方についての検討を進めなければならない。

### 註

- 1 竹中孝浩他 「中尾遺跡発掘調査報告書」倉吉市教育委員会 1992
- 2 根鈴智津子他 「向野遺跡発掘調査報告書」倉吉市教育委員会 1998
- 3 岡平拓也 「向野遺跡第2次発掘調査報告書」倉吉市教育委員会 2003
- 4 岡平拓也 「向野遺跡第3次発掘調査報告書」倉吉市教育委員会 2004

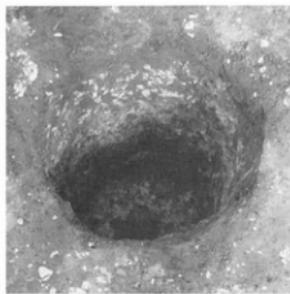


調査前全景（南から）

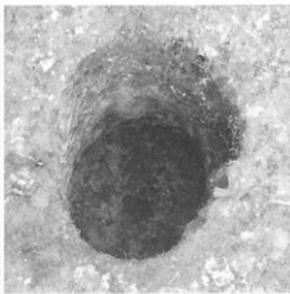


調査後全景（北から）

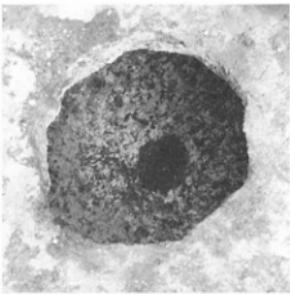
図版 2



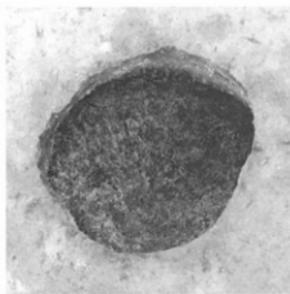
1号落し穴（南から）



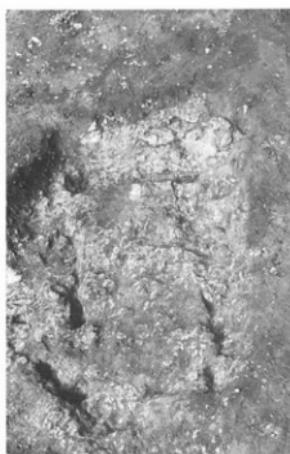
2号落し穴（南から）



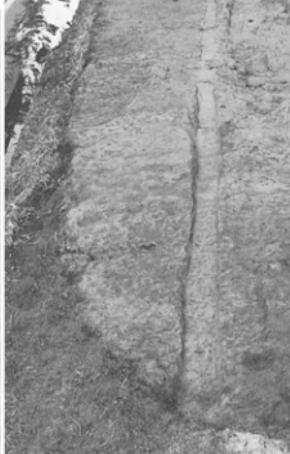
1号貯藏穴（南から）



2号貯藏穴（南東から）



1号石棺墓（南から）



1号道路遺構（東から）



1号道路遺構（東から）



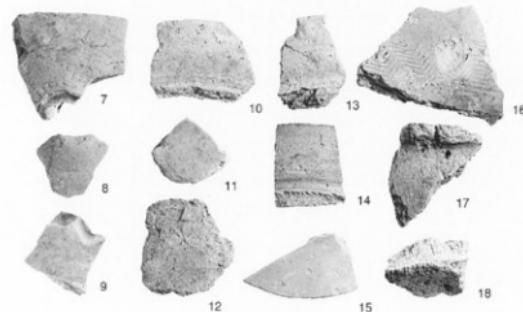
1号道路遺構・断面（東から）

1号道路遺構（西から）

图版 4



1号貯蔵穴出土・弥生土器



土師器（包含碗出土）



1号道路遺構出土玉砂利

## 報告書抄録

書名	雨堤遺跡発掘調査報告書						
別書名	一般県道上大立大栄線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査						
卷次	-						
シリーズ名	倉吉市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第122号						
編著者名	地域 調査						
調査範囲	倉吉市役所						
所在地	〒682-0811 島根県倉吉市光明町722番地 TEL 0858-22-4419						
発行年月日	西暦2004年3月25日						
所収遺跡名	所在地	コード	北緯	東經	測量用圖	調査面積	調査原因
		光明町：遺跡記号					
雨堤遺跡	倉吉市上福井町雨堤	31200:20 K.A	35° 25' 54"	137° 44' 49"	20031224~20040212	700m <sup>2</sup>	一般県道上大立大栄線 改良事業
所収遺跡名	種別	主な時代：主な遺物		主な遺物		特記事項	
雨堤遺跡	落し穴 基盤 石棺墓	縄文：落し穴 2基 弥生：肝臓穴 2基 古墳：G形塚 1基		弥生土器・土師器		弥生時代の集落跡を確認。	

## 雨堤遺跡発掘調査報告書

一般県道上大立大栄線改良事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成16年3月25日 印刷

平成16年3月25日 発行

発行  
倉吉市教育委員会

印刷  
優成印刷有限公司